

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp

URL: <http://www.elv.or.jp/>

対談記事 自再協×ELV機構広報部会

## 安全作業に関するQ&A

平成26年5月13日(火)、平成26年度の第2回広報部会が開催されました。本年度より広報部会では、自動車再資源化協力機構の方々にもご参加いただき、毎月情報交換をしています。今回は、管理部マネージャーの柴田芳徳様をお迎えし、広報部会の自動車再資源化協力機構担当である平地、木村で安全作業に関する話題を中心とした対談を行いました。

日本ELVリサイクル機構 広報部会  
木村 香奈子、平地 健



自動車再資源化協力機構  
管理部マネージャー 柴田 芳徳 様

### Q1. フロン類の回収、エアバッグ類の車上作動処理または回収時で事故等が発生した場合の対応はどのようにすればよろしいですか？

A1. 安全な作業をしても、何らかの原因で事故につながるケースも考えられます。そのような場合は、迅速に自動車再資源化協力機構にご連絡ください。原因の特定などを行い、今後解体事業者の皆様の事故再発防止のために活用させていただきます。

### Q2. 最近、車上作動処理契約の監査が厳しくなっているように思いますが、どのような背景がありますか？

A2. 解体業者の皆様のご理解により適正処理が徐々に広がっていますが、残念ながら1割強の皆様で何らかの措置が発生しています。適正業務を行う意思があるのにできていない場合は、その原因を解決して適正業務が継続できるよう細かい点を確認する必要があります。

逆に、適正業務を継続されている皆様がおられるということをしっかり認識いただくため、適正業務を行う意思がない場合は厳格に対処させていただきます。その一例として、登録取消を行った場合は、当機構のHPで事業所名を公表しています。

(次ページに続く)→

## 目次

巻頭言	..... 1
トピックス1	
対談:安全作業 Q&A	..... 1~2
トピックス2	
自再協10周年パーティー	..... 2
ELV機構活動ニュース	..... 3
会員活動ニュース	..... 4
鉄スクラップ最新情報	..... 5
行事予定・お知らせ	..... 6
編集後記	..... 6

## 巻頭言

当社へ4月に入社した新卒5名の方も早いもので1ヶ月立ちました。最初は、社会人とは何か、経営理念や事業の目的を教えました。初めて、18歳の方4名を面接した時、受け入れ体制が出来ているだろうか、接し方をどのようにすればいいか悩みましたがマナー研修や電話対応など毎日、日報を見ていると日々成長しています。初めての給与明細を渡した時、家族に食事会や感謝の気持ちが大事と伝えました。びっくりしたのは、親の年齢とも近く、責任が重大であります。私も、初心に戻り、育成に力を入れようと思いました。これからも、自動車リサイクルに、興味を持っていただき、若い方も入りやすい環境作りを目指します。

(広報部会 伊地知 志郎)

Q3. 全国でエアバッグ車上作動処理の契約取消会社が数社出てきていますが、取消しとなる大きな問題点は何でしょうか。

A3. エアバッグ類車上作動処理契約会社にもかかわらずエアバッグ類未処理のままシュレッダー会社等に引き渡そうとしていること(車両情報やメーカー情報を是非閲覧してください)、管理台帳の適正な管理や保存がされていないこと、安全作業を怠っていること等です。特にエアバッグ類処理漏れは、登録取消しに繋がります。ハーフカットを行う場合も、エアバッグは必ず作動もしくは回収をしてください。



## 自動車再資源化協力機構

### ■電話

03-5405-6150

### ■メール

info@jarp.org

### ■ホームページ

<http://www.jarp.org/>



Q4. 将来、自動車再資源化協力機構で行われている車上作動処理契約会社への監査業務を日本ELVリサイクル機構へ委託していただける可能性はありますか。

A4. まずは、日本ELVリサイクル機構の安全作業指導員が行っている自主監査のような自助努力が必要ではないでしょうか。機構内での適正処理の推進や不適正処理の撲滅を進めながら解体業界の底上げを行い、そのうえで次のステップがあると思われま。

本日は、大変わかりやすくご説明いただき、ありがとうございました。

## 自再協の設立10周年記念パーティーへ出席



[↑写真:パーティーの様子]



[↑写真:乾杯の発声を務めた河村代表理事]

平成26年5月29日(木)、自動車再資源化協力機構の設立10周年を記念する懇親パーティーが開催され、ELV機構より河村代表理事をはじめとする多数の役員らが出席しました。

このパーティーは、自動車リサイクルがさらに円滑かつ適正に持続するように、自動車再資源化協力機構と参加者との連携だけでなく、参加者同士が業界の垣根を越えて協調・協力していくことを確認してもらう場として開催されたもので、ELV機構のほか、関係省庁や自動車メーカー等も参加されていました。

当日、乾杯の発声を務めた河村代表理事からは、「ELV機構は今後も自動車再資源化協力機構との連携を深め、自動車リサイクル制度の安定的運用を図っていきたい」という趣旨の発言があり、両団体のさらなる連携強化を目指すうえで、非常に充実した懇親パーティーとなりました。



## ポーランドのELVスタディーツアーを実施

ELV機構では、ポーランドの自動車リサイクル団体“Polish Vehicle Recycling FORUM Association FORS”（以下“FORS”）が日本の自動車リサイクル業者を訪問し、工場見学・意見交換などを行うELVスタディーツアーを実施しました。今回来日した“FORS”は、政府との交渉を目的とした団体で、ポーランドの許可業者約850社のうち、214社が会員となっています。

### FORSとの意見交換の内容

- ◆ポーランドでも日本と同様に使用済自動車の仕入れが問題となっている。  
→ その背景には、違法解体の多さがある。  
（年間110万台発生する使用済自動車の約7割は違法解体、合法解体は年間35万台）
- ◆ポーランドでは、新車の場合はリサイクル料金のデポジットはなく、中古車の場合はある。  
解体業者がリサイクル料金を負担。  
→ FORSでは、新車・中古車にかかわらずリサイクル料金を預託すべきと主張している。

### 会員事業所訪問日程

1. 5月8日(木) 河村自動車工業／山梨県
2. 5月9日(金) ユーパーツ／埼玉県
3. 5月14日(水) シーパーツ／山口県



[↑写真：5月8日 河村自動車工業にて撮影]

今回のツアーは、環境省からELV機構に依頼があり、ELV機構が会員事業所の工場見学・意見交換を設定したものでしたが、双方にとって大変有意義な経験になりました。今後もELV機構では、このような国際的な活動を積極的に行っていきたいと思います。

## 定期社員総会を開催

前号、また、メールやホームページ等でもお知らせしておりますが、平成26年度定期社員総会を以下のとおり、開催いたします。

★詳細はこちら↓

<http://www.elv.or.jp/8-13-0.html>

平成26年度 定期社員総会  
開催日 平成26年6月12日(木)

### 第1部 定期社員総会

13:00～14:00 / 12:30受付開始  
田中田村町ビル 8階 8E会議室

### 第2部 会員交流会

14:15～15:45 / 13:45受付開始  
※場所は第1部と同様

### 第3部 懇親会

16:00～18:00 / 15:30受付開始  
STANDARD会議室 新橋フォーラム店  
B1Fホール

## トラック解体見学会を開催

このたび、ELV機構のトラック・バス部会では、日本トラックリファインパーツ協会(JTP)と共同で「トラック解体作業見学会並びに意見交換会」を開催します。

これは、日本自動車工業会及び日本自動車車体工業会から要望を受け、これらの団体の次世代に向けた取り組みの1つである“解体・リサイクルし易いボディー造り”に協力するため、解体作業の現状を知っていただくことを目的としたものです。

当日は、保冷バンの解体を手作業とニブラの2通りで行い、解体・リサイクルし易いボディー造りに役立てていただくとともに、トラック3Rを促進させるために我々の業界が取り組むべき課題やリサイクルの有り方などについての意見交換会を行う予定です。

### トラック解体作業見学会並びに意見交換会

- 開催日 平成26年6月6日(金)
- 開催場所 株式会社シーパーツ 山口工場
- 内容 ニブラと手作業の2通りの方法での同時解体

## 九州ブロックにて全会員対象の報告会を開催



[↑写真：ご挨拶をされる湯浅ブロック長]

平成26年5月17日(土)、日本ELVリサイクル機構九州ブロック全体報告会と懇親会を熊本県の全日空ニュースカイホテルにて開催しました。目的・趣旨としては、1月のブロック会議の中で、「会員との交流を深め、今後のブロック会議に役立てたい」という共通認識を得て、今回の開催に至りました。当日は来賓として以下の3名の方々にご参加いただきました。

自動車再資源化協力機構 理事・業務部長 須藤幸様  
 管理部マネージャー 柴田芳徳様  
 業務部マネージャー 三淵亮様

まず、湯浅隆雄九州ブロック長、河村二四夫代表理事、須藤幸業務部長の順でご挨拶をいただき、その後各地域団体の理事長より、取り組みについて報告がありました。

報告の中で、「日本ELVリサイクル機構への事業協力は、各地域団体、そして各会員一社一社単独では出来ない事を団結して行う事業が可能であり、今後はスケールメリットを生かして各会員へ還元出来る団体でなければいけない」との意見がありました。また、他の理事長からも日々の状況報告をいただきました。会員様からの質問では、「プレスのダスト処分で受け入れが出来ていない」との意見もありました。

その後、柴田芳徳管理部マネージャーより、フロン類・エアバッグ類適正業務の重要ポイントの報告もありました。懇親会では、北口賢二名誉顧問、外川健一先生から、ご挨拶をいただきました。閉会挨拶では、北九州ELV協同組合の三橋裕司理事長より挨拶をいただきました。

九州ブロック内の全会員を対象としたこのような会議は、初めての開催でありましたが、九州ブロックの会員の方々としっかり交流を図る事が出来たと思います。今後も継続して、開催出来ればと思っております。

(九州副ブロック長 伊地知 志郎)

## 各地域にて総会を開催

平成26年5月、各地域の総会等が開催されました。

～ 開催一覧 ～

**5月10日(土)**

山口・広島県支部 定期総会

**5月17日(土)**

岩手県ELVリサイクル協議会 通常総会

**5月22日(木)**

山形県自動車解体協議会 通常総会

**5月23日(金)**

北海道自動車処理協同組合 定期総会  
 福島県自動車リサイクル協同組合 通常総会  
 岡山県自動車リサイクル協同組合 総会

**5月24日(土)**

茨城県自動車リサイクル協同組合 通常総会

**5月25日(日)**

静岡県自動車解体業協同組合 通常総会  
 沖縄県自動車リサイクル協同組合 通常総会

## セミナー開催のご案内

### 自動車のリサイクルに関するセミナー

- 日時 平成26年7月12日(土) 13:00～16:20
- 場所 東北大学片平北門会館 エスパス (北門生協2階)
- 内容
  - ・東北大学 中村 崇 教授、
  - 東京大学 村上 進亮 准教授による講演
  - ・希少元素高効率抽出技術拠点の見学
- 申込
  1. 参加者氏名(ふりがな)
  2. 所属先(会社名など)
  3. 連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)
 1～3の内容を以下の宛先にお送りください。

※申込締切 平成26年6月27日(金)※

東北大学多元物質科学研究所  
 希少元素高効率抽出技術拠点 原子 宛  
 E-Mail : [harako@tagen.tohoku.ac.jp](mailto:harako@tagen.tohoku.ac.jp)



## ■ 5月第5週(27日)の鉄スクラップ動向 ■

[ 提供 / 日刊市況通信社 ]

### 国内、一部「高値修正」も大勢様子見 東京製鉄九州24日値下げ

国内の鉄スクラップ市況は、大勢様子見で横ばいの推移を続けている。一部で建値や実勢価格の値下げ改定の動きがあるが、高値修正の動きにとどまっている状況だ。輸出市場で、韓国ミルなどの日本玉当てが続き、輸出価格が前週もH2でFOB・32,500～32,800円どころと横ばいの推移となっているため、各地区の相場が輸出価格に「収斂」する動きを見せている。

そうした中、東京製鉄は24日、九州工場の購入価格を1トあたり500円値下げした。同工場は4月11日の値上げ以来、購入価格を維持し、同社の工場別建値で最高値となっていた。ただ値下げ後も、特級購入価格は1トあたり33,500円で同社の全工場内で最高値にある。

東京製鉄九州の値下げ後、九州地区が値下げ改定となったほか、前週までに東北や新潟などでも値下げの動きが見られたが、いずれも高値修正で中心値は輸出価格の水準に向けての価格改定の動きとなっている。



### 【関東地区】電炉買値・浜値とも様子見商状、電炉入荷はバラつき

#### 5月27日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2		気配
関東	北関東	31,000	32,000	様子見
	南関東	31,000	32,000	様子見
名古屋		30,000	31,500	値下がり
関西	大阪	31,500	33,000	様子見
	姫路	31,000	31,500	様子見

関東地区の鉄スクラップ市況は 電炉買値と浜値が横並びの水準にあること、月末が近づいているものの市中業者筋の出荷姿勢に変化が見られないことなどから、電炉買値も浜値も様子見横ばいの推移を続けている。電炉筋の鉄スクラップ入荷はバラつきがあり、好調な筋と使用量を割り込む筋との間で差が出ている。H2炉前実勢価格は31,000～31,500円中心、高値32,000円見当。H2浜値は31,000～31,500円中心、一部でこれより高値も。

### 【東海地区】電炉5社が500円方の調整下げへ

名古屋メーカー5社は27日から購入価格を500円がた値下げ改定した。下げ幅は大同特殊鋼、共英製鋼名古屋、山口鋼業の3社は一律500円、愛知製鋼はヘビー据え置きその他500円、中部鋼板は新断据え置きその他500円。月末環境を控えていることもあり、今週の荷動きは全般に上向き気配にあり、メーカーの入荷は好調。H2炉前実勢価格は30,000～31,000円中心、高値31,500円見当。

### 【関西地区】需給双方ともに膠着状態のまま月末に突入

大阪地区では、電炉筋によっては数日間の製鋼休止を予定しているため、需給面でいまだ不安材料が目立つ形にあるものの、輸出商談において日本産スクラップは割安感が残っており、需給双方ともに膠着状態のまま月末となりそうだ。H2炉前実勢価格は31,500～32,500円、一部高値33,000円。姫路地区では生産量に対してスクラップ在庫の水準が高く、需給は引き締まっていない。H2炉前実勢価格は31,000～31,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、5月27日午後時点のもの)

# 行事予定

## ■6月の主な予定

### 6月12日(木)

- ・平成26年度定期社員総会
  - 第1部 定期社員総会
  - 第2部 会員交流会
  - 第3部 懇親会

### 6月13日(金)

- ・平成26年度自動車リサイクル士制度  
講師養成講習会

### 6月18日(水)

- ・第3回 広報部会



## お知らせ

### ■会員数(2014年5月現在)

会員＝659社／賛助会員＝27社

### ■エアバッグ一括作動処理の中断に関するお知らせ

エアバッグ類一括作動仕様のマツダデミオにおいて、エアバッグ類の作動による振動を安全装置が感知することによって、エアバッグ類が連続して作動しないという事象が発生しています。

#### 対象車両

- ◇メーカー名 マツダ
- ◇通称名 デミオ
- ◇型式 DE3FS／DE3AS／DE5FS／DEJFS  
(自動車排出ガス識別記号を除いた記号)
- ◇年式 2007年7月～

安全上の問題はないとのことですが、対象車両については以下のリンクをご参照のうえ、処理していただきますようお願いいたします。

[http://www.jarp.org/pdfs/information/20140522\\_matsuda\\_ab\\_ikkatsuchuudan.pdf](http://www.jarp.org/pdfs/information/20140522_matsuda_ab_ikkatsuchuudan.pdf)

万が一、事故等が発生した場合は、現場を保存(写真等による保存でも可能)のうえ、速やかに自動車再資源化協力機構までご連絡ください。

#### 自動車再資源化協力機構

TEL: 03-5405-6150 / E-mail: info@jarp.org

(情報提供／自動車再資源化協力機構)

## 編集後記

早いもので、今年も総会の時期がやってまいりました。各部会が資料作りに追われている中、我が広報部会も、事業報告や事業計画案の作成に取り組んでおります。▲広報部会の使命は、機構の活動や業界に関わる情報を、迅速、正確そしてもれなく会員に伝えることにあります。その中心的な役割を担っている媒体が、ホームページや「ELVニュースレター」であり、そして毎週水曜日にメール配信されている「事務局だより」です。▲よく会員の皆様から「ELV機構の活動内容が理解できない」という意見を頂戴することがあります。このような意見を頂く度に、スタッフ一同、力不足を感じずにはおれません。▲「情報」とは「敵情報知」の略で、軍事用語から生まれたそうです。勝利するために敵の状況を把握するという意味がそもそものようです。戦いに勝つためには、活用できる内容でなければ情報としての価値はありません。▲我々広報部会一同は、今期も勝つための有益な情報を届けるべく努力してまいります。今後とも皆様の応援よろしく願い申し上げます。

(広報部会 部会長 永田 則男)